

## 6. IoT 技術活用分科会—IoT 技術を活用した多点観測による災害対策について検討する—

西村 出（株式会社セブン-イレブン・ジャパン システム本部 総括マネージャー）

上石 勲（防災科研 首都圏レジリエンス研究センター 副センター長）

（西村） この分科会は、産官学で構成されるイメージで、民間企業のデータや国・地方自治体のノウハウ、大学や研究機関の技術やアルゴリズムなど、災害時に必要なデータと技術を IoT を活用して組み合わせ、1+1+1 を 3 ではなく 5 にも 10 にもしていきたいと思っています（図表1）。今取り組んでいるさまざまな取り組みを進化させていきたいと思っていますが、現状把握は大体めどがついてきたということで、今後は気象災害の予報・予測をこの分科会の主なテーマにしたいと考えています。例えば、ここの地域にこれだけの雨や雪が降るという防災科研が行う気象予測を、大学の交通工学のアルゴリズムと組み合わせ、このままこの気象になるとこの道はこのぐらい渋滞していこうという予報・予測ができないか。内閣府の災害情報ハブや徳島県のデータなどとも連携しながら、そういったことをしたいと考えています（図表2）。

1

6. IoT技術活用分科会 (スライドタイトル書き換え)

- 分科会の構成イメージ
  - ・「産」民間企業（新事業の創出）
  - ・「官」国や地方自治体
  - ・「学」大学や研究機関（新技術の研究開発）
- 分科会の目的
  - ・災害時に必要なデータをIoTを活用して、  
各々のデータ及び技術を組み合わせることで1 + 1 + 1 = 5にする。
  - ・減災、レジリエンス向上に寄与するシステム構築
  - ・地震計、積雪 + α の取り組みを進化⇒防災科研、大学、メーカー（IoT、データ）
  - ・自治体との連携⇒例：徳島県

2

6. IoT技術活用分科会

大学 (アルゴリズム) 国 (官データ) 地方自治体 (官データ)

道路管理会社 運輸・輸送会社

地震計 (ATM) 量子コンピュータ IoT制御 積雪

7-Eleven 防災科研

・減災  
・レジリエンス に資する取組み

民間の方では、例えばわれわれと同じように災害時でも使命を持って物を運ぶ運輸・輸送会社や、道路管理会社にも参加していただくことができないかと考えています。技術面では、最近勉強し始めたばかりですが、今、量子コンピュータのいろいろうご紹介や研究テーマを頂いているところなので、そういった技術も組み合わせながら IoT の基盤をつくり、先ほど申し上げた手法や技術ができないかと考えています。

(上石) 民間の方々のスピード感は学ぶべきところがあり、それに付いていけるように、一緒に頑張れるように活動を続けていきたいと思います。1+1+1 が 5 にも 10 にもなるように、ぜひとも分科会の方々と共に取り組んでいきたいと思いますので、よろしくお願いします。